

吉田小唄

作詞高橋 清一 作田飯塚 宏 振付二井 ゆき 歌竹沢 之裕、五十嵐静江

(1)

米のなる木がネ 見たければ
見たければ
吉田たんぼの 田植え唄
可愛あの娘が 見たければ
背戸の垣から チラチラと
(サテモ吉田はよいところ

(4)

云うか云わぬかネ 来てみたが
来てみたが
あれはあの娘の 機 の音
何を結城の ツムギなら
おさのはこびも うわの空
(以下くり返し)

ソレよいところ) (5)
(くりかえし)

(2)

月が出てきてネ 咲くならば
咲くならば
鬼怒の河原の 月見草
村の鎮守に 願かけて
それであの娘が そわそわと
(以下くり返し)

肌が見たけりゃネ 玉の肌
玉の肌
吉田干瓢の 肌の色
何をせくのか せみしぐれ
あずの天気は あかね雲
(以下くり返し)

(3)

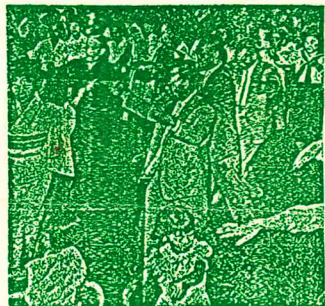
それがせわしいネ風だより
風だより
唄がきこえた 桑畑
誰のじゃまとて ないけれど
垂ねるまで 待っとくれ
(以下くり返し)

(6)

久下田小金井ネ 上三川
上三川
ゆこうか戻るか 十文字
ぼんの娘は ゆれながら
雲のあしさえ 気にかかる
(以下くり返し)

(7)

晴れてそう日がネ 来たのなら
来たのなら
つくば山さえ めおと連れ
秋は田んぼの 稲かりに
カマを揃えて サクサクと
(以下くり返し)



知事さんも鮮かに
吉田で新生活の益歸り